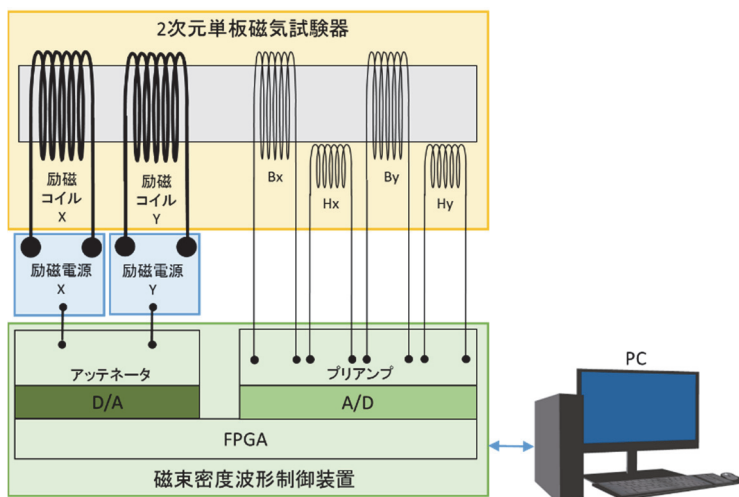


2次元単板磁気試験器

R2D-SST-60 Series

高磁束密度に対応した新型励磁器を開発

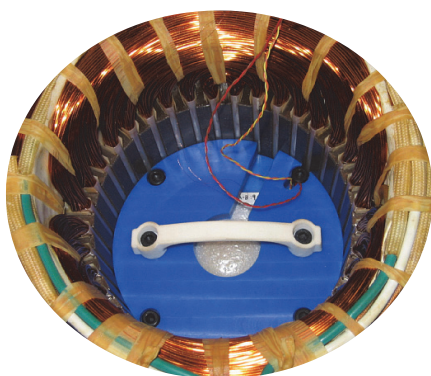
電磁鋼板の評価には全方向の磁気特性を知る必要があります



2次元単板磁気試験器構成

モータの設計に必要な電磁鋼板の磁気特性は従来エプスタイン法や単板磁気試験法で測定していましたが、より多くの条件下で磁気特性の測定が重要となり、特にモータは回転磁束下で使用されるため2次元磁気特性測定が重要となります。

高磁束密度対応の新型励磁器



高磁束密度領域で評価を可能にする新型励磁器を開発しました。

- ・2Tの高磁束密度を可能にしました。
- ・磁界強度測定:ダブルHコイル法を採用
- ・磁束密度測定:探りコイル法を採用

(探針法での測定も可能です。)

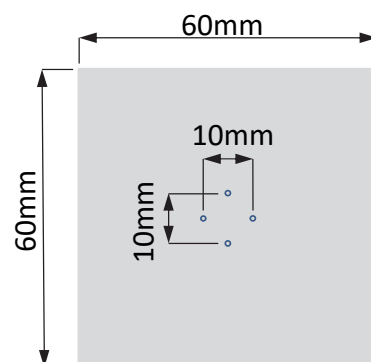
測定の高速化にFPGAを搭載し、測定時間を短縮しました。

測定試料サイズ

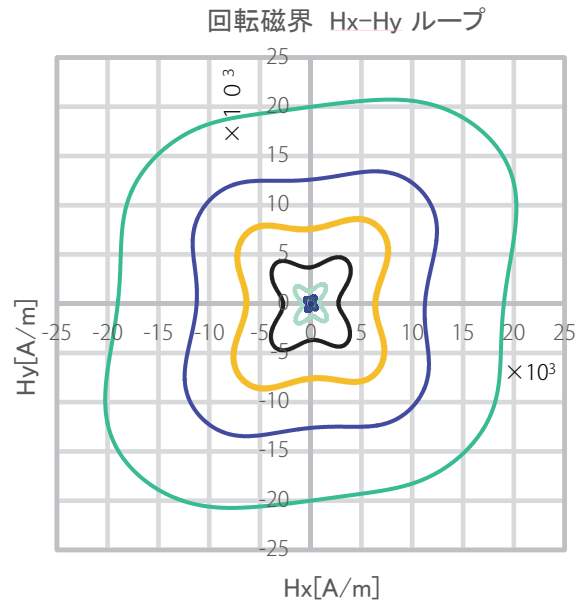
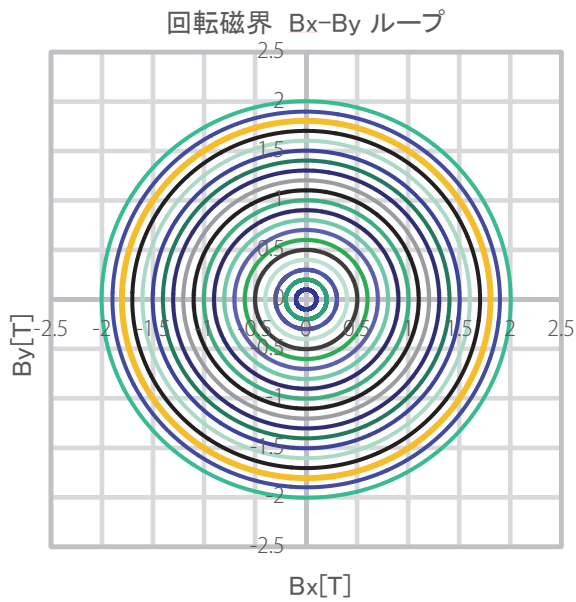
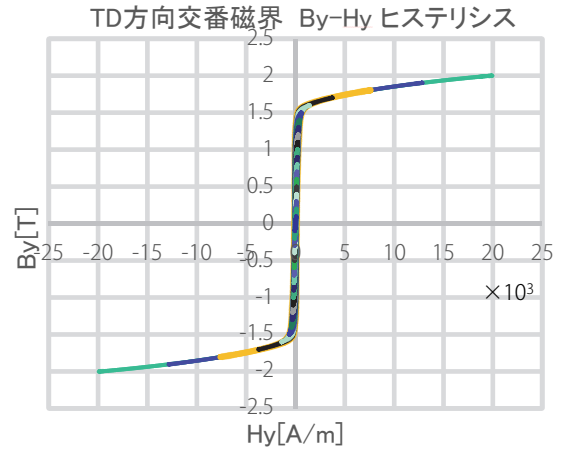
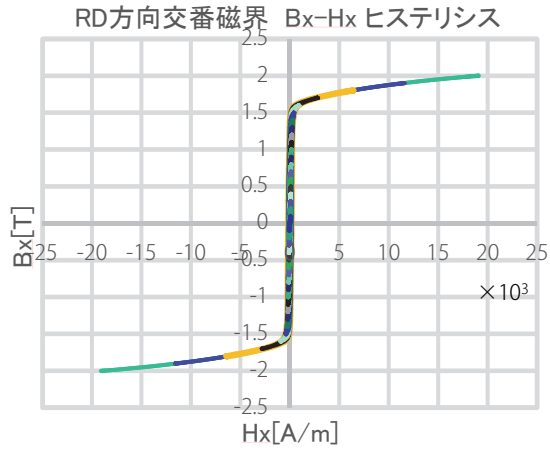
測定試料サイズ: 60mm × 60mm

最大φ109mmまで対応可能

探りコイル用穴ピッチ: 10mm



測定例 50A1300 50Hz



仕様

項目	仕様	備考
システム仕様	磁界強度: ダブルHコイル法	Hコイル寸法 10mm × 10mm
	磁束密度: 探りコイル法	Bコイル間隔 10mm
試料寸法	60mm × 60mm	最大 φ109mm
測定モード	交番磁束	位相角: 0-90deg (5deg/ステップ)
	回転磁束	短、長軸比: 0.1-1.0 (0.1/ステップ)
測定磁束密度	0.1T~2T	0.1T ステップ
測定周波数	50Hz~1kHz	
磁界強度の均一領域	±0.5%以下	評価領域 10mm ³
最大発生磁界	13,000A/m	参考